

令和8年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和7年度事務事業 〕

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	健康都市づくり関連事業（中区）				事業番号	212-014	
担当部署名	中区役所	局	中保健福祉総合センター	部	中保健センター	課	

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(1)健康で長生きできる都市の実現
			有	取組の方向性	③健康を支える地域社会の形成		
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		
	堺市SDGs未来都市計画2021-2025	施策との関連	有・無	指標名	—	目標値	—
			有	現状値	—	目標値	—
			有・無	ゴール	ゴール(3)すべての人に健康と福祉を	ターゲット	3.4

2	関連計画	さかい健康プラン		
3	事業開始年度	平成 9 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	健康増進法		

事業の概要

5	事業の実施主体	中区		
6	事業の対象	中区民	対象数	単位
			116,589	人
7	事業の目的	区民の自発的な健康増進の意識向上と、健康の保持増進・生活習慣病の予防を図り、健康寿命の延伸をめざす		
8	事業内容	健康情報を広く区民に発信することを目的に、区で実施している区民フェスタのブースに出展し、がん検診、健康相談、各種検診受診案内など多岐にわたる健康関連の啓発・情報提供などを行う。		
	※国・府の基準より上回って実施した内容	—		
9	主な支出先	—		
10	公民連携・協働事業	—		

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
	休日のがん検診受診者数	人		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
			目標値	100	170	170	170
			実績値	130	157		
			達成率	130%	92%		
	当該指標を選定した理由	休日にがん検診を実施することで、平日にがん検診を受診しにくい対象者のがん検診受診者数の向上を目的としている。					

12	目標値の設定根拠・算出方法	R6年度実績に基いて算出。R6年度から肺がん検診に加え、乳がん検診を追加したことにより、受診者増が見込まれるため目標値を変更					
	活動指標	単位		実績		目標	
	保健センターブースの参加者数	人		令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目標値	1,000	850	850	
			実績値	812	672		
			達成率	81%	79%		
	当該指標を選定した理由	健康情報を広く区民に発信することを目的としている。					
	目標値の設定根拠・算出方法	令和6年度からブース内容を変更し、がん検診をより充実させた。内容に合わせ、目標の見直しを図った。					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	健康都市づくり関連事業（中区）	事業番号	212-014
-------	-----------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

	項 目	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	300	300	300	300	300
	国支出金	0	0	0	0	0
	府支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他（基金繰入金）	300	300	300	300	300
	受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0
14	人件費（b）	810	810	840	840	870
15	年間経費（c）=(a)+(b)	1,110	1,110	1,140	1,140	1,170

事業費の内訳

（単位：千円）

	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		R7	決算				R7	決算		
16	保健センターまつり負担金	R8	予算	300	0		R8	予算		
		R7	決算				R7	決算		
		R8	予算				R8	予算		
		R7	決算				R7	決算		
		R8	予算				R8	予算		
		R7	決算				R7	決算		
		R8	予算				R8	予算		
		R7	決算				R7	決算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

	区 分	単位	令和6年度	令和7年度
17	① 参加者数	人	812	672
	② 上記①にかかる年間経費	千円	1,110	1,140
	③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	1,367	1,696
算出についての説明等		年間経費＝事業にかかる負担金＋当該事務等にかかる人件費		

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	令和元年度までは、区民まつりと同日に、健康フェスタとして開催していたが、令和4年度からは、区民フェスタの実施場所の変更に伴い、実施方法を見直し、区民フェスタの1つのブースでの実施とした。令和6年度及び令和7年度においては、従来の肺がん検診に加え、乳がん検診を同時実施することができた。また、協定企業との連携をはかったことで、がん検診に加えて健康チェックを実施することができ、人員を増やさず効率的に事業ができた。単位当たり経費は増えたものの、令和5年度より事業費を50%削減し、効率的に実施することができており、費用対効果は高い事業である。
----	---

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	令和6年度より区民フェスタで、新たに乳がん検診を実施したが、休日に複数のがん検診を案内したことにより、普段保健センターへ来所する機会が少ない対象者が、がん検診を受診する機会を増やすことができ、実際にがんの早期発見につながっている。また、日頃保健センターに来所することの少ない青壮年層に向けて、健康チェックなどを通じて、健康の自己チェックを推進し、健康意識を高めるという目的の達成に寄与したと考えられる。 令和7年度において、区民フェスタ当日は悪天候であったことも影響し、令和6年度に比べ、ブースの参加者数は、やや減少した。しかし、がん検診受診者数については当日のキャンセル枠を設けるなどした結果、増加に転じ、目標の達成に寄与したと考えられる。
----	--

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	休日に複数のがん検診を実施したことや、健康チェック会を同時併設することにより、平日に健康確認の機会を確保しにくい市民にも参加しやすい機会を提供し、その実績及び達成率ともに高く、市民の健康増進の有効性が確認されている。こうした状況を踏まえ、本事業は今後も継続して実施していく必要がある。
	有効性	■ 高い □ 低い	